

# マテリアリティ

Daigasグループは、マテリアリティの特定について、グループ関係組織との議論を重ね、事業環境の変化やサステナビリティ関連の社会動向を踏まえた中長期的な「社会・環境へのインパクト」項目を抽出し、次に「自社グループの将来の財務インパクト」項目について抽出しました。各項目でインパクトを検討し、「社会・環境へのインパクト」については外部有識者の意見をいただき、マテリアリティを特定しました。これらを踏まえ、中期経営計画では「ミライ価値の共創」を掲げ、社会課題解決に向けた価値創造を追求し、ステークホルダーとともに実現することを重点戦略の一つとしています。

## マテリアリティ特定プロセス

マテリアリティ策定においては、GRIスタンダードが示す手順等を参考にしました。「項目別スタンダード(200、300、400シリーズ)」のマテリアルな項目(経済、環境、社会)を参考に、「社会・環境へのインパクト」「自社グループの将来の財務インパクト」の評価結果を右下図のようにマッピングしました。図の**1**部分が、重要性が高いと考える項目「マテリアリティ」と特定しています。特定したマテリアリティおよびこれに紐づくKPIは、「ESG推進委員会」「ESG推進会議(経営会議)」での議論を経て中期経営計画とともに取締役会にて承認され、各KPIについてはPDCAを回しながら、経年で報告しています。

### ■ マテリアリティ特定プロセス

#### Step1

グローバルリスク、事業環境の変化、事業を通じたSDGsへの貢献において、GRIスタンダード等を参考に当社グループにとっての「社会・環境へのインパクト」「自社グループの将来の財務インパクト」項目をリスト化

#### Step2

「自社グループの将来の財務インパクト」は、グループ内の関係組織とビジネスドメインごとに2030年度の目指す姿、課題、リスクを検討。「社会・環境へのインパクト」については外部有識者の意見を踏まえて検討

#### Step3

「社会・環境へのインパクト」「自社グループの将来の財務インパクト」双方の各項目のインパクトをリスクと機会の両面で検討し、重要度をスコアリングしマテリアリティを特定

#### Step4

特定したマテリアリティを踏まえて当社グループの憲章等の改定を行い、「Daigasグループ企業行動憲章」を体現しサステナブルな社会の実現に貢献する取り組み指標として、中期経営計画とともに取締役会に上程し承認をもって決定

#### Step1

2030年の経済・社会・環境等の外部環境を分析

#### Step2

ビジネスドメインごとに2030年の目指す姿・課題・リスクを検討  
Step1の分析に加えて、有識者意見をヒアリング

「自社グループの将来の財務インパクト」を検討  
「社会・環境へのインパクト」を検討

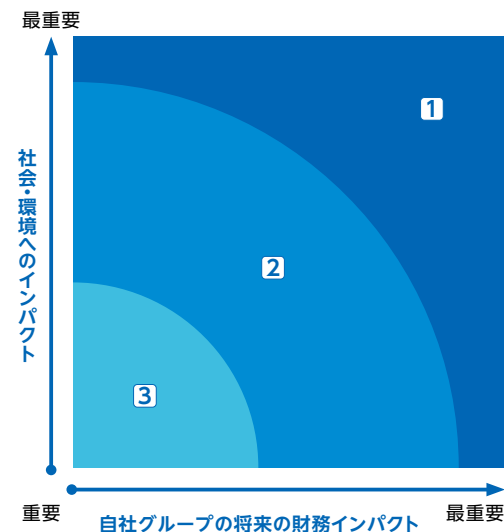
#### Step3

双方のインパクトを踏まえてマテリアリティを特定

#### Step4

取締役会で承認・決定

### ■ インパクト評価表



#### 1

- ・気候変動
- ・顧客の安全衛生
- ・サービスの安定供給
- ・顧客基盤の維持・拡大
- ・地域コミュニティとの共生
- ・顧客満足・サービス品質の向上
- ・サプライチェーンマネジメント
- ・コンプライアンス
- ・従業員エンゲージメント
- ・従業員の能力開発
- ・ダイバーシティ&インクルージョン

#### 2

- ・労働安全衛生
- ・(新興国の)地域経済の発展
- ・顧客・消費者への情報提供
- ・汚染防止・化学物質
- ・税金
- ・倫理的行動
- ・雇用の確保
- ・結社の自由・団体交渉権

#### 3

- ・循環型経済(原材料の利用)
- ・政治献金
- ・生物多様性
- ・水の適正利用

## ■ 重要と考える理由

マテリアリティ	理 由
顧客基盤の維持・拡大	Daigasグループの事業は、100年以上前に照明(ガス燈)から始まり、その後、厨房、給湯、暖房、発電と新たな用途を開発し続け、お客さまの様々なご要望にお応えしてきました。また、多くのお客さまとのつながりをもとに産業ガス、不動産、情報通信、新素材、生活関連分野等に事業領域を拡大してきました。当社グループは目指す姿として「暮らしとビジネスの“さらなる進化”のお役に立つ企業グループ」を掲げており、多くのお客さまの暮らしやビジネスをより良いものにするに努めることが、当社グループの存在意義と考えます。
顧客満足・サービス品質の向上	お客さまに、より安全に、より快適に商品・サービスをご利用いただくため、保安・サービスの品質向上に努めるとともに、安全なご使用方法について適切に情報提供を行うことが重要と考えます。
顧客の安全衛生	Daigasグループは、2017年3月に「長期経営ビジョン2030」、2021年3月に「中期経営計画2023」を発表しました。重大事故ゼロの継続を目標に掲げ、お客さまと社会のレジリエンス向上を目指す当社グループにとって、都市ガスおよびガス設備・発電設備の安全性を確保することは、最優先の責務であり、安全性向上に向けた取り組みと万一の事故や災害に備えた体制を構築することが重要と考えます。
サービスの安定供給	お客さまと社会のレジリエンス向上を目指すDaigasグループにとって、都市ガスの安定供給を支えるための計画的な設備更新や導管網の整備、防災対策に努め、より高い供給安定性を確保する基盤の強化を進めることが重要と考えます。
気候変動	地球規模の気候変動への対応は「持続可能な開発目標(SDGs)」の一つに位置づけられ、Daigasグループにとっても経営の重要課題の一つであり、CO <sub>2</sub> 排出削減の取り組みは極めて重要な使命と考えます。
地域コミュニティとの共生	Daigasグループは、地域に根ざした事業を展開し、地域から支えられています。地域への様々な貢献が、地域社会と当社グループ双方の発展につながる好循環を生み出すと考えます。
サプライチェーンマネジメント	広範囲にわたる都市ガスバリューチェーンは様々なお取引先のご協力で成り立っています。バリューチェーンにかかわるお取引先とともに社会的責任を果たすことが、ステークホルダーとの信頼構築、ひいてはバリューチェーン全体の発展につながると考えます。
コンプライアンス	Daigasグループは、コンプライアンスとは法令遵守を中心としつつ、健全な倫理観に基づく良識ある企業行動を実践することと考えています。ステークホルダーからの信頼維持には、役員・従業員が確実に実践することが必要不可欠です。
従業員エンゲージメント	Daigasグループでは「Daigasグループ企業理念」においてグループの宣言として、「お客さま価値」の創造を第一に、「社会価値」「株主さま価値」「従業員価値」の創造につなげることを宣言しています。人的・知的資本は「価値創造の源泉」であり、やりがいを持って仕事に挑戦できる職場風土の醸成とそれらを推進するより良い施策を講じることが重要と考えます。
従業員の能力開発	「Daigasグループ企業理念」においてグループの宣言として、「お客さま価値」の創造を第一に、「社会価値」「株主さま価値」「従業員価値」の創造につなげることを宣言しています。人的・知的資本は「価値創造の源泉」と考えており、当社グループ「長期経営ビジョン2030」においても「働き方改革の推進と人材育成」を掲げています。個々の能力開発に向けた多様な教育プログラムの提供により、急速に変化するビジネス環境においても活躍できる人材の育成を重要と考えます。
ダイバーシティ&インクルージョン	ビジネスフィールド拡大に向けて、誰もが活躍できる環境基盤としてダイバーシティの推進が重要と考えます。「Daigasグループダイバーシティ推進方針」に基づき、性別・年齢・障がいの有無・国籍など多様な属性を持つメンバーで自由闊達な議論ができる環境の整備とともに、誰もが能力を発揮できる会社や組織に変革していくことが不可欠です。